

## CSP-HORの概要

下妻 晃二郎  
Kojiro Shimozuma, MD, PhD  
k-shimoz@sk.ritsumei.ac.jp



CSP-HOR 運営委員会 副委員長、同 乳がん委員会 委員長  
立命館大学 生命科学部 生命医科学科 (医療政策・管理学)

July 7, 2012@Tokyo Univ.

1

## CSP-HORとは？

日頃から本支援事業の運営・研究にご協力いただき、感謝いたします。

- 設立母体: 財団法人パブリックヘルスリサーチセンター(PHRF)
  - PHRFの設立目的: 「ストレスが心身の健康に及ぼす影響に関する研究を行うとともに、その成果を国民の疾病予防及び健康増進に反映させることにより国民保健の維持向上に寄与すること」
- CSP-HORの歴史
  - 2000年- 乳がん臨床研究支援事業(CSPOR-BC)内の「ヘルスアウトカムリサーチ小委員会」として発足
    - 前身は、1996年- 乳がん薬物療法臨床試験 NSASBC-01内の「QOL評価小委員会」
  - 2004年- 対象を乳がん以外に広げ、独立した組織に発展

2

## CSP-HORとは？(つづき)

### ■ ミッション

- 国民の健康・QOL(生活・生命の質)の向上や、医療経済的に納得・許容できる医療技術の確立に貢献する研究が活発に行われることを目指し、以下の事業を支援する。

- 1. ヘルスアウトカム研究の企画実施
- 2. ヘルスアウトカムに関わる研究方法論の研究
- 3. 研究者に有益と考えられる情報を、インターネット・学会・論文や広報活動を通じて提供する
- 4. ヘルスアウトカム研究の質向上に必要な活動

3

## CSP-HORで行われてきた研究

### ■ 健康アウトカム(QOL・副作用など)評価

- 乳がん薬物療法臨床試験内 8研究
- HOR独自研究 16研究
- 英文原著 10本



### ■ 医療経済評価

- 乳がん薬物療法臨床試験内 4研究
- HOR独自研究 5研究
- 英文原著 3本



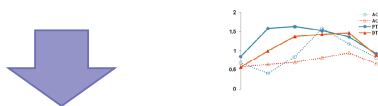
### ■ その他研究

- HOR独自研究 3研究
- 和文原著 2本

4

## 健康アウトカム評価研究

### ■ 治療中の患者の主観的アウトカム(Patient-reported outcomes: PROs)を定量的に測定



### ■ 結果を医療現場や社会に還元

- 診療ガイドラインに反映
- 医療現場のコミュニケーションツールとしての応用



5

## 医療経済評価研究

### 1. 費用効果分析 cost-effectiveness analysis

費用/1単位の効果

### 2. 費用効用分析 cost-utility analysis

費用/1単位の効用\*(QALY: Quality-adjusted life year)

$$QALYs = \sum_H Q_H \times L_H$$

H: 健康状態  
Q<sub>H</sub>: 健康状態HでのQuality Weight (Full health=1, Dead=0)  
L<sub>H</sub>: 健康状態Hでの生存年数  
1QALY: 完全な健康状態で生存する1年

福田敬先生スライドより改変

### ■ 結果を医療現場や社会に還元

- 診療ガイドラインに反映
- 政策へ反映
  - 薬価の調整に応用
  - 医療資源配分に応用



6

## CSP-HOR研究の目指す方向・課題

### ■ 健康アウトカム評価研究

- 方法論の課題の解決
  - Minimally important difference (MID), Response shift, IRTを利用したCAT, e-PROなど
- 得られたエビデンスの患者や社会への還元の促進
  - 診療ガイドラインへの積極的な組み入れ
    - ⇒ 質の高い診療の保障
  - ICTやメディアを通じた患者や国民への積極的な広報
    - ⇒ 不安の解消

## CSP-HOR研究の目指す方向・課題(つづき)

### ■ 医療経済評価研究

- 方法論の課題の解決
  - 効率性、公平性を考慮した指標の開発
  - そもそも論—医療経済評価はなぜ必要か?を突き詰める。
- 得られたエビデンスの政策への応用
  - 公的資源の効率的・公平な配分指標として応用
  - 医薬品、医療機器、医療行為の適正な価格付けへの応用
  - ICTやメディアを通じた患者や国民への積極的な広報
    - ⇒ 理解の促進